

研究活動 3. 情報活用パッケージ項目案

以上、研究活動 1、及び研究活動 2 において、現状の課題を分析し、研究の目指す方向性について検討材料となる情報を整理してきた。この研究活動 3 では、専門研究 B において作成予定である情報活用パッケージの項目案を提案する。

情報活用パッケージは、重度・重複障害のある子どもの個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と実施（実態把握、目標設定、実態把握や、目標と指導内容の設定、適切な評価と指導・支援の改善等）に必要な視点や情報を提供するものである。一つ一つの項目について分冊にし、基本的な情報をコンパクトに整理して、取り出して使いやすいものを、と考えている。

情報活用パッケージの項目案は、以下の手順で作成された。

- ① 研究活動 1 の現状の課題分析より、重度・重複障害のある子どもを担当する教員の顕在的・潜在的なニーズについて、研究チームで議論を行った。
- ② 上記の教員のニーズに応えるための内容を意識しつつ、研究活動 1 の学校における情報収集、研究活動 2 の文献情報整理等を、並行して行った。
- ③ 情報パッケージ項目案（第 1 案）を作成した。
- ④ 11 月以降に訪問した学校において、項目案についてのフィードバックをいただき研究チームで協議の上、それを反映した。

教育計画立案と実施の基本的な考え方

- 子どもの障害ではなく、子どもの持つ能力や強み、またその力を出すために必要な支援に焦点をあてる。
- 子どもの生活の質の向上を目指したものであり、学校の中だけに限定するのではなく、子どもの家庭や地域での生活の質を向上させることが最終的な目的である。
- 子どもと家族の現在の生活、将来の生活を視野に入れる。
- 子どもの自己決定を重視する。
- 子ども（家族）が望む未来の実現のための目標を含む。
- 様々な専門職（教員を含む）は、上記の目標の実現を目指して連携をする。

アセスメント、計画立案、計画を実現する教育実践、評価の流れ

- 個別の教育支援計画、個別の指導計画の手続き
- 自立活動の位置づけ
- 個別と集団の考え方
- 授業（教科等）の年間指導計画との関係

活用パッケージ項目

〈アセスメントに関すること〉

- 子どもの生活マップ
- 生活場面におけるコミュニケーション活用の状況
- 感覚障害（視覚・聴覚）がある場合の行動観察の視点
- 環境面のアセスメント（人・物理的環境・もの）
- 子どものモチベーション（好きなもの、活動、場面）
- 保護者との連携・共働
- 医療関係者に質問する内容

〈計画立案から教育実践へ〉

- 指導や支援の対象となるニーズの決定の仕方（優先順位）
- 目標設定の仕方（子どものモチベーション・生活機能・支援をセットで検討）
- 子ども（家族）が望む未来の実現のための目標設定と教育実践のリンク
- 家庭・地域生活を視野に入れた目標設定と教育実践のリンク
- 小中高のライフステージを意識した目標設定と教育実践
- 交流及び共同学習における目標設定と教育実践
- 一日を通じた個別目標への取り組み（生活・学習場面のどこで実現するか）
- PT、OT、ST、看護師、介護スタッフ等、専門職との連携の視点